



上手な野菜の育て方

ハクサイ



①栽培時期と品種

○ 種まき ■ 収穫

栽培方法	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	品種
冬収穫		■ ■ ■ ■							○				ほまれ 三宝

②栽培上の注意点

◆ハクサイは、短期間に旺盛な生長をするので耕土が深く、排水良好で保水性に富んだ肥沃地を作る。また、ホウ素や苦土が欠乏しやすいので、微量要素を含んだ土壤改良資材を施用するとともに、根を傷めないように管理する。

③畝づくり

◆ハクサイの根は細いが深くまで伸びるので、種まきの10日前までに基肥を施し深く耕す。畝幅は2条まきの場合、早生種は120cm、中晚生種は140cmとし、排水不良田は谷溝に水がたまらないよう、水はけを良くしておくことが大切である。(畝を高くして水はけを良くすると、ある程度、軟腐病や根こぶ病を防ぐことが出来る)

④種まき・間引き

◆株間は45~50cmに点まきする。まき箇所の土壤を細かく碎き、ビールびんの底で軽くたたき、浅いまき穴を作る。
◆1ヶ所5粒程度の種をまき、薄く土を覆って乾燥防止に切わらを敷き、十分灌水する。
◆気温が高いと、上手く育たないため、9月に播種する場合は、10日間ほど間隔をあけ3回に分けて播種すると、最初が被害にあっても他が残ったり、収穫時期をずらすことが出来る。

⑤本田肥料

◆結球の始めには畑の上が見えないように、葉をのびのびと茂らせておく。肥料の吸収が多くなるのはやや涼しくなってからで、結球を始めてからもどんどん肥料を吸収するので、肥切れのないように追肥する。

◆基肥は3.3m²(1坪)当たり完熟堆肥10kg、石灰質資材500g、BMようりん200g、化成肥料400gを畝立て時に施す。

◆1回目の追肥は、種まき(植え付け)後15日頃に、2回目はその後15日頃に、3回目の最終追肥は、結球が始まり葉が立ってきた時に、それぞれ化成肥料で100g施す。生育初期は中耕を兼ね、株間や畝肩を削って施し土壤を被せる。最終の追肥は葉にかかるよう、畝肩や谷溝にバラ施用する。

◆ホウ素欠乏(葉柄の内側や葉脈に褐色のスジやヒビ割れが出来、折れやすくなる)が毎年出やすい場合は、耕うんする前にホウ砂を3.3m²当たり3gを1ℓの水に溶かし、如露で均一に散布して耕うん畝立てする。

⑥病害虫防除

◆軟腐病や根こぶ病の発生は連作障害が原因なので、小松菜・大根・キャベツなどの後には同じ場所での作付けを控える。
◆定植した後、防虫ネットのトンネルで覆う事で、ヨトウムシの侵入を軽減することができる。(ネットは最後までとらない)
◆ヨトウムシを防除する時は、葉に卵がついた頃を見計らって、アファーム乳剤1000倍溶液を葉の表と裏に散布する。(収穫7日前まで・総使用回数3回)